

自己評価報告書(最終報告)

報告者

現代教育課題総合コース
／小西 正雄

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

テーマ:海外授業補習校における授業研究について

計画:共同研究を予定しているホノルル日本人学校へはすでに過去4回(うち1回は「教育実践フィールド研究」として院生同道の上示範授業実施)訪問し、鳴門教育大学からの支援に期待する声大きい。今年度はあらたに赴任する校長との意思疎通を図り、具体的な共同研究のあり方を考えたい。

2. 点検・評価

2013年1月に太田教授ならびに現代教育課題総合コース所属院生有志とともにホノルル日本人授業補習校を訪問し、授業見学ならびに授業参加を実施した。中学校公民の授業では、太田教授、院生有志ともども中学生の班別学習に一人ひとりが参加し、協働して話し合い活動を実施した。現地教員からは、授業研究会を本格化させたので、来年度はぜひより濃密なかたちで参画してほしいとの要請があった。なお、以上の研究協力活動は通常の予算の範囲内で十分に可能であったため、科学研究費の無用な申請は行っていない。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

これまでの経験からして、先輩からのアドバイスによる受験が少なくなかったため、今年度も、卒業生を送ってくれた大学を中心に可能な限り訪問して希望者を集めて説明会を開催したい。

2. 点検・評価

2012年9月に別府大学にて説明会を開催した。また10月には関東学院大学にて説明会を開催した。12月には東京理科大学、法政大学、中央大学、明星大学、帝京大学を訪問し広報活動を行った。ほぼ目標を達成することができた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

メインの授業である「現代の諸課題と学校教育」において23年度に実施したハンドルネーム方式は予想以上の効果が認められたため、今年度はさらに改善(受講生自身が自分のハンドルネームを忘れないようにするための措置, 教員が本名とハンドルネームをすぐに対照できるできような措置)を進める。

2. 点検・評価

ハンドルネーム方式は、受講学生のナマの意見をシェアするのに絶大な効果をあげることができた。また成績評価のすべてをハンドルネームで管理したため、個人成績の中間発表もパワーポイントで全員に開示することができ、全体の中での自己評価が可能になった。

このほか、受講学生の提出物はすべてハンドルネームごとに封筒に格納し、成績通知表とともに期末に全員に返却した。ポートフォリオ評価の方法を口頭で説明するのではなく、実際に講義のなかで演じてみせることができ、受講学生の好評を得ることができた。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

メインの授業である「現代の諸課題と学校教育」の講義内容を体系的にとりまとめる作業を行う。
ホノルル授業補習校における授業研修の実態についての研究を引き続き行う。

2. 点検・評価

「現代の諸課題と学校教育」の講義内容と取りまとめた著書『君は自分と通話できるケータイを持っているかー「現代の諸課題と学校教育」講義一』を東信堂から出版することができた。同書の書評は『教育PRO』誌にも掲載された。

10月に開催された日本教育大学協会の研究集会において、「現代の諸課題と学校教育」で試みた言説批判力育成のための授業内容について、その概要を報告した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

大学院教務委員会委員ならびに就職支援委員会委員として所要の任務を遂行する。(仮称)インターネット大学院の設置計画について、関係するコースの担当教員団の一員として必要な作業を行う。

2. 点検・評価

大学院教務委員会委員ならびに就職支援委員会委員として所要の任務を遂行した。
遠隔教育プログラムの設置準備作業については、準備室長の藤村准教授とも連携して、26年度から開設する授業名称案やカリキュラムのコンセプトづくりに参画した。また藤村准教授が遠隔教育プログラムの主担当となる欠を補充するための人事については、コースとしての要望などをふまえて選考開始に至るまでの準備を行った(注:実際の選考作業は太田教授が担当)。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

徳島県小学校社会科を語る会(会長, 徳島市大松小学校教頭稲井智義, 本学修了生)との連携実践研究を引き続き行う。

2. 点検・評価

徳島県小学校社会科を語る会の例会に出席し、必要な指導助言を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

特に遠隔教育プログラムの導入に際しては、既存の通学制とどのような位置関係のもとに展開するかについて、教員の負担度その他微妙な問題が多く、募集パンフレットの文言一つをとっても、かなり慎重な審議を必要とした。コース内部での行き違いも少なからず存在はしたが、ほぼ予定通りの進捗をみることは喜ばしいことであった。